

ところが！国交省は冬期水位運用試験を再開 2003年～継続中

今年も放射能対策
を求めたにも関わら
ず水位上昇管理を
継続した。

試験理由

平成21年度 霞ヶ浦水位運用試験の実施について

国土交通省霞ヶ浦河川事務所と水資源機構利根川下流総合管理所は、水利用と湖の水辺環境との共存を模索するため、昨年度に引き続き、霞ヶ浦水位運用試験を実施いたします。

今年度の水位運用試験は、昨年度と同様に11月中旬に開始し、降雨及び常陸川水門の操作によって2月末にYP+1.3mの水位を確保、それ以外の期間はYP+1.1mの水位を目標とする運用を実施いたします。

〈参考〉

1. 霞ヶ浦の水位運用

- ・霞ヶ浦では、地域の産業や生活を守る各種用水を供給するための水位運用を行っています。
- ・霞ヶ浦開発事業の運用開始(平成8年4月)以降、霞ヶ浦の周辺環境などを考慮して、ヨシなどの植物の生育期、開花・結実期である4月から10月中旬はYP+1.1mを中心管理し、11月中旬から2月末の間は3月からのかんがい期の水利用に備えるため、YP+1.3mを目標に水位運用を行ってまいりました。
- ・上記の運用を行っていたところ、湖岸植生帯に変化が見られたことから、平成12、13年度に湖岸植生帯の緊急保全対策を実施しています。その工事とモニタリングのため、平成12年の秋からは、通常YP+1.1mの暫定的な水位運用を実施しています。

2. 水位運用試験

- ・湖岸植生帯の緊急保全対策の整備後2年が経過し、対策地区においては植生が保全再生されつつある事を受け、平成16年度から水利用と湖の水辺環境との共存を模索するため、水位運用試験を実施しております。

※ 昨年度は、11月中旬から開始し、降雨及び常陸川水門の操作によって2月末にYP+1.3mを目指し、それ以外の期間はYP+1.1mを中心とする運用を実施しました。
出典：霞ヶ浦河川事務所WEBより

霞ヶ浦開発によって水田に灌漑用水を引く時期に水が使えると証明するためとしているが、実際に水田灌漑の取水のピークとなる4月中旬～5月の前の3月には水位を下げてしまう。

つまり、計画時(50年以上前)に決めたことだから継続しているだけ。一度決めたことは変えたくない役所の体質。

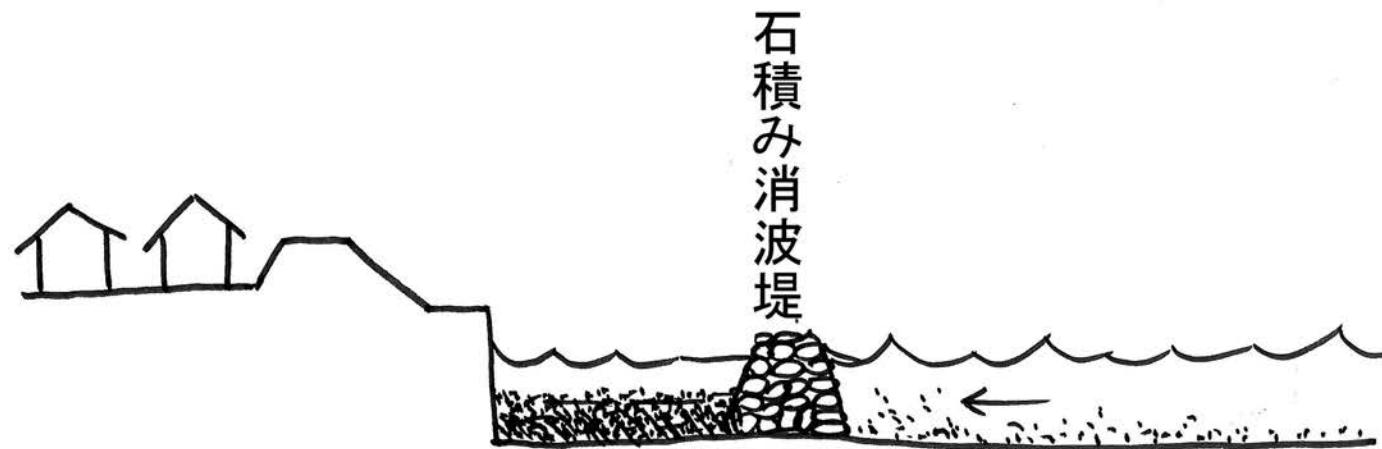
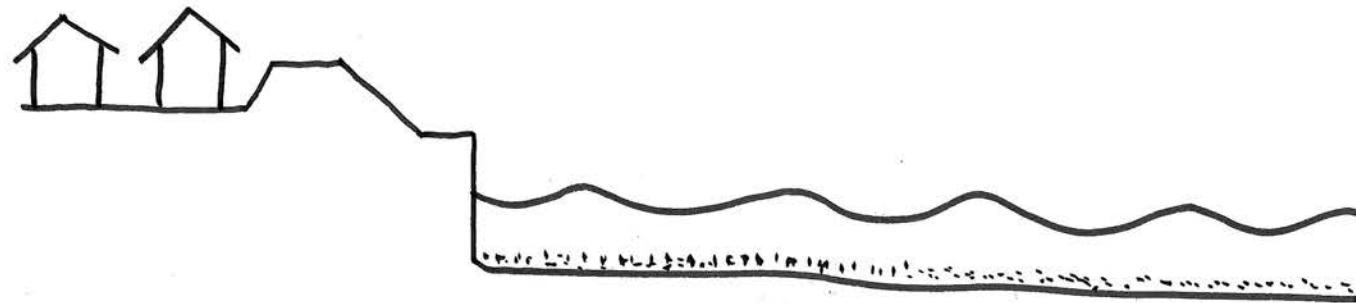
◆国交省は水位上昇による堤防の浸食を防ぐために、
石積み消波堤を設置。さらなる環境破壊が…無駄な公共事業。



霞ヶ浦の破壊が進む！
環境を分断！
放射性物質を蓄積。



ヘドロが溜まりやすくなり、
放射能汚染が深刻化！



石積み消波堤によって水の動きが無くなり岸近くにヘドロが堆積しやすくなる。ヘドロと一緒に放射性物質が生活圏の近くに寄って来てしまう恐れがある。

国交省霞ヶ浦河川事務所のホームページから

霞ヶ浦の汚濁要因

霞ヶ浦は平均水深4mと浅く、、、、、、霞ヶ浦の湖底に堆積した底泥から溶出や、**風浪による底泥の巻き上がり**によって、湖水の窒素・リンの汚濁が増幅しています。

霞ヶ浦には数多くの川が流入していますが出口は利根川の一本だけです。**霞ヶ浦の湖水交換日数は約200日で、一度汚濁が進むとそれを回復するには大変な時間**を要すると考えられます。

逆水門の操作見直しによる放射能対策は、

霞ヶ浦に流入河川から放射性物質が移動・集積し、湖内がホットスポット化してからでは、困難になる。

できるだけ、早く実施して湖内のホットスポット化を阻止することが重要である。

霞ヶ浦の水位・逆水門についての経緯

1971年	霞ヶ浦開発事業が認可され、事業開発
1973年	常陸川水門完全閉鎖 湖内最後の水浴場“歩み崎”閉鎖
1994年	アサザ基金前身団体が湖水位管理計画の見直しを建設大臣に申し入れる
1996年	建設省 霞ヶ浦開発総合管理を開始 水位がY.P.1.0mからY.P.1.3mへ
2000年	<ul style="list-style-type: none">・アサザ群落が34から11群落に減少 群落面積でも約10分の1に減少・アサザ基金は水位上昇を伴う管理の中止を霞ヶ浦河川事務所へ提出・これに対し霞ヶ浦河川事務所と水資源開発公団は冬期の湖水位の上昇管理の中止を回答し、アサザ群落を含む水辺植生の減退の原因究明及び保全対策に関する検討会を設置することを回答・国交省、アサザ基金と協働で市民参加型の自然再生事業が始まる
2002年	前出検討会「霞ヶ浦の湖岸植生帯の保全に係る検討会」検討結果を報告
2003年	<ul style="list-style-type: none">・霞ヶ浦河川事務所は冬期の水位をY.P.1.3mに上げる管理の再開を発表・霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会が設置される。・アサザ基金は水位上昇を伴う管理の中止を霞ヶ浦河川事務所へ提出・この取組みをモデルに自然再生推進法が成立する。
2006年	霞ヶ浦河川事務所は本格的に冬期の水位上昇を行う管理を実施
2010年	前原国土交通大臣と会見。水位と逆水門について直接要望。検討すると回答
2011年	逆水門柔軟運用案を土浦市議会、つくば市議会など全会一致で採択。

放射能問題の経緯(1)

- ・霞ヶ浦の保全と防災に関する緊急の要望

茨城県知事宛 2012年1月31日

- ・県知事からの回答 2月20日

霞ヶ浦の放射能対策は県としてこれまで対策を講じていないし、これからも講じるつもりはない。

流域の34の大学、研究機関に協力の要請

- ・霞ヶ浦の放射能汚染対策および防災対策について緊急の質問

書 国交省霞ヶ浦河川事務所長宛 2月23日

- ・国交省から回答 3月22日

放射能汚染対策は一切実施していない。今後も水位上昇管理と逆水門管理は見直しをせず従来通り継続する。

放射能問題の経緯(2)

- ・市民による放射能モニタリング開始 3月8日

これまでに34河川、42地点でサンプリングを実施。早急に56本すべての調査を終え、さらに詳細な調査を実施する予定。

- ・除染対策の実施を求める要望 霞ヶ浦問題協議会長 3月10日

- ・霞ヶ浦問題協議会長から回答 3月23日

座視できない問題であり総会に議題として取り上げる。
5月25日回答。国や県に要請する。

- ・霞ヶ浦への放射性物質の蓄積を促進する逆水門管理および水位上昇の見直しを求める申し入れ 国土交通省霞ヶ浦河川事務所長宛 3月30日
見直しはしないと回答。5月15日

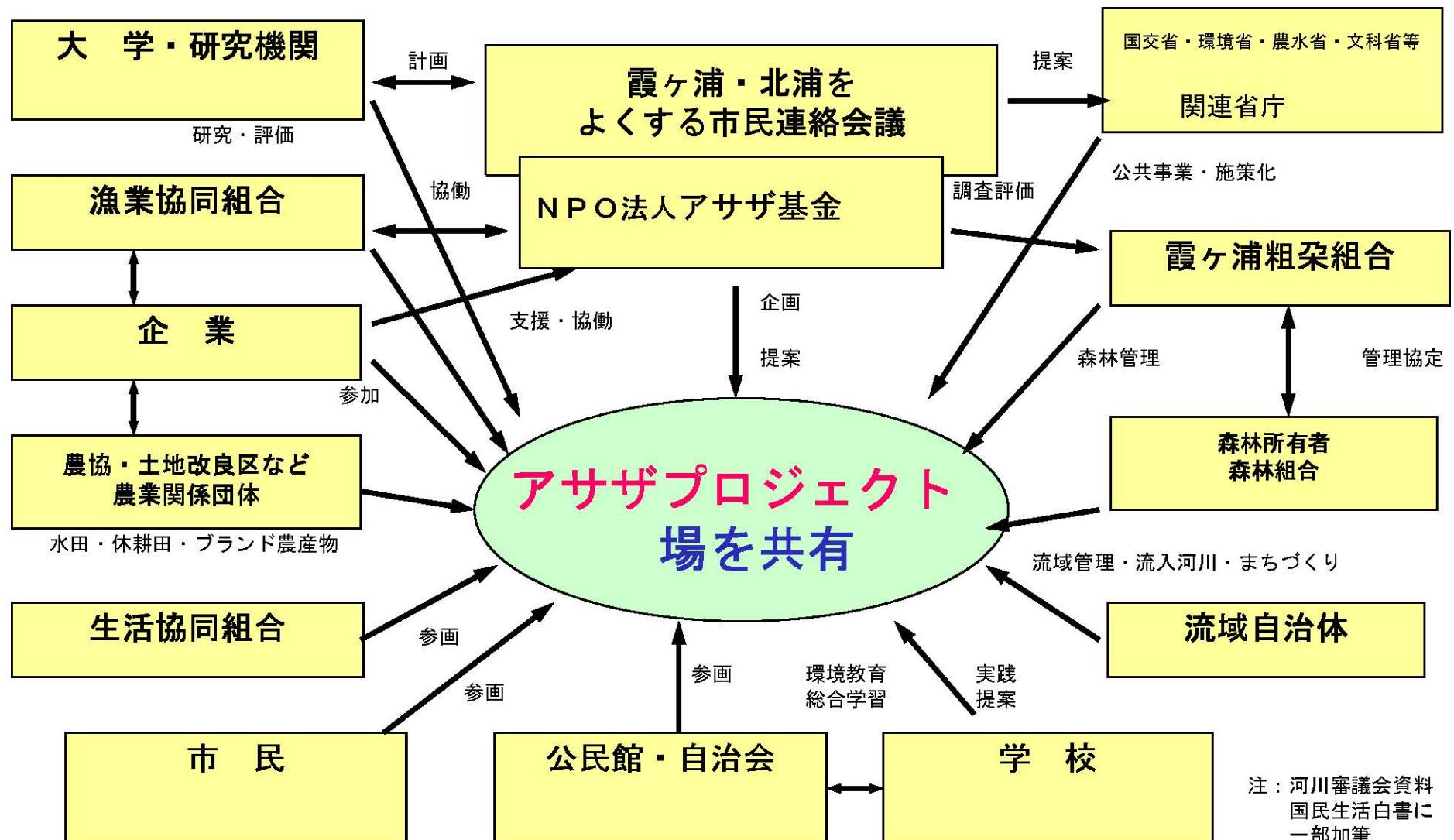
放射能問題の経緯(3)

- ・市民による放射能モニタリング 4月中に全流入河川での調査を実施。5月上旬にかけて、重点3河川の詳細な調査を実施。
- ・土浦市長に要望書。4月18日
5月9日回答。県や国に要請する。市民モニタリングとの協働はしない。
- ・茨城県知事に要望。4月20日
回答、5月11日 引き続き国の調査を注視してまいります。
- ・茨城大学学長に協働の要望。5月24日 7月 9月 提出
同大学が、霞ヶ浦の放射能汚染対策に向けて研究協力対策を強化し、市民と協働でモニタリング等を実施するとの発表を受けて。9月に協力は出来ないと回答。
- ・国交省に石積み消波堤の建設中止を申し入れる。7月 未回答
- ・環境省と茨城県に霞ヶ浦の放射能対策を要望。10月
- ・国交省に水位上昇管理の中止を求める申し入れ。10月
- ・県内選出の全国会議員と立候補予定者にアンケート。11月

課題

- ・湖内に放射性物質が蓄積しないようにするための逆水門の開放と水位管理を国交省に実施させる。
- ・放射性物質が流入河川から湖へ移動することを防ぐための手法や技術(河川内ホットスポットに吸着剤や堰の設置など)。
- ・流入河川の詳細な調査・汚染の実態把握
細かな支流を含めると数百の川を調べる必要がある。
- ・流域の雨水調整池等の調査と対策の実施。
- ・流入河川に蓄積した放射性物質を除去する手法や技術
- ・長期にわたるモニタリングと除染体制の確立
新しい公共による民官協働のネットワーク。

新しい公共がつくるネットワーク～市民型公共事業



新しい公共による放射能対策

広大な流域全体でのモニタリングを継続し、霞ヶ浦・北浦を放射能汚染から守り抜くには、広域ネットワークが必要。

民官協働による縦割りの壁を越えた取り組みが必要。

互いの意見や立場の違いを乗り越えた協働。

あらゆる分野が有する知恵や知識、技術を結集して取り組む。

地域・霞ヶ浦・北浦の特色を活かした取り組みをめざす。

放射能汚染を流域ぐるみで食い止めた実績が水産物や農産物の信頼とブランドにつながる。とくに、漁業の復興を。



1. 霞ヶ浦の放射線汚染問題に国会議員として具体的にどのように対応するか。
2. NPOからの協働の呼びかけに行政や研究機関はどのように応えるべきか。
3. 流入河川からの放射性物質の流入を阻止する対策は必要か。
4. 放射能対策として逆水門の操作を見直す必要があるか。
◦
5. 国会議員としてこれまでにこの問題について国会で質問等の活動をして来たか(前国会議員対象)
6. その他、この問題について意見がありますか。

茨城県内の衆議院選挙立候補予定者40名全員を含む44名に
霞ヶ浦の放射能汚染問題への対応を質すアンケートを送付しました。

12月7日現在 衆議院選挙立候補予定者40名の内 下記11名が

選挙区	氏 名	政 党
1区	田谷武夫	共産党
2区	原田雅也	みんなの党
3区	小林恭子	共産党
4区	高野 守	民主党
4区	宇野周治	共産党
6区	青木道子	共産党
6区	栗山天心	日本未来の党
7区	永岡桂子	自民党
比例	新谷正義	自民党
比例	塩川鉄也	共産党
比例	梅村早江子	共産党

未回答者

選挙区	氏名	政党	選挙区	氏名	政党	選挙区	氏名	政党
1区	福島 伸享	(民主党)	1区	田所 嘉徳	(自民党)	1区	海老沢 由紀	(日本維新の会)
2区	石津 政雄	(民主党)	2区	額賀 福志郎	(自民党)	2区	梅沢 田鶴子	(共産党)
3区	葉梨 康弘	(自民党)	3区	小泉 俊明	(日本未来の党)	3区	前田 善成	(日本維新の会)
比例	石井 章	(日本未来の党)	4区	梶山 弘志	(自民党)	5区	大畠 彰宏	(民主党)
5区	石川 瑞政	(自民党)	5区	福田 明	(共産党)	5区	大泉 博子	(民主党)
6区	丹羽 雄哉	(自民党)	6区	狩野 岳一	(無所属)	6区	深沢 裕	(日本維新の会)
7区	柳原 和己	(民主党)	7区	中村 喜四郎	(無所属)	7区	筒井 洋介	(日本維新の会)
比例	石井 啓一	(公明党)	比例	川口 浩	(民主党)	比例	岡本 三成	(公明党)
比例	輿水 息一	(公明党)						
比例	山内 康一	(みんなの党)	比例	中島 改希	(無所属)			
1区	武藤 優子	(日本未来の党)				7区	白紐 勇	(共産党)
参議院	岡田 広	(自民党)	参議院	君司 彰	(民主党)	参議院	長谷川 大経	(無所属)
参議院	藤田 玄久	(民主党)						

**原発事故の失敗に学び真に科学的な対応を
進行する実態の把握(観察・考察)**

**全体像を把握しようとしてない。部分しか見ようとしない。56本
の流入河川で各河川1カ所のみ……縦割り専門分化**

予想される最悪の事態への対策の検討(仮説)

**事態を注視する、調査結果を待って対応する、取り返しの付
かない事態に至るまで対策を講じない……傍観者の論理**

予想される事態への対策の速やかな実施(実験)

**結果が明らかとなってから、取り返しの付かない事態に後手
後手で場当たり的に対応するだけ。住民への情報提供の遅
れ。いつまでも原因の本質に迫れない……愚か者の手法**

実施された対策への評価(検証)

**次々と起きる想定外の事態に翻弄され続け場当たり的な対
応を繰り返す。記録(議事録)さえ無い……学習能力の欠如**

失敗の本質から学べ

例 茨城県

魚の汚染(結果)を調べるが、魚を汚染から守るための取り組み(原因に対する対策)を一切行わない。
海と違い湖には放射能が長期間留まる。
起きてしまった結果への対応(風評被害や補償)のみ。

例 国(国交省・環境省)

流入河川と湖内の一部しか調査しない。湖への放射能蓄積を防止するための対策を一切講じていない。湖内の放射蓄積を促進する管理を継続している。
起きてしまった結果(湖のホットスポット化)への対応は、おそらく不可能、または国民に莫大な費用負担を強いる。

原発事故と同じ失敗を

霞ヶ浦で繰り返してはならない。

今すぐに行動を！
市民の力で社会を変えよう！

署名にご協力ください。